

文部科学省「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択 人間性とキャリア形成を促す学校 Internship

- 小中高大連携が支える実践型学外教育の大規模展開 -

関西大学では、教職志望者の就業支援を主目的とした学校インターンシップを2003年度から実施しており、その取組「人間性とキャリア形成を促す学校 Internship - 小中高大連携が支える実践型学外教育の大規模展開 -」が文部科学省「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されました。

今回は、全国の大学・短大等から5つのテーマに410件の申請があり、47件が採択されました。本学の申請したテーマ2「主として教育課程の工夫改善に関するテーマ」では129件の申請があり、15件が採択されました。

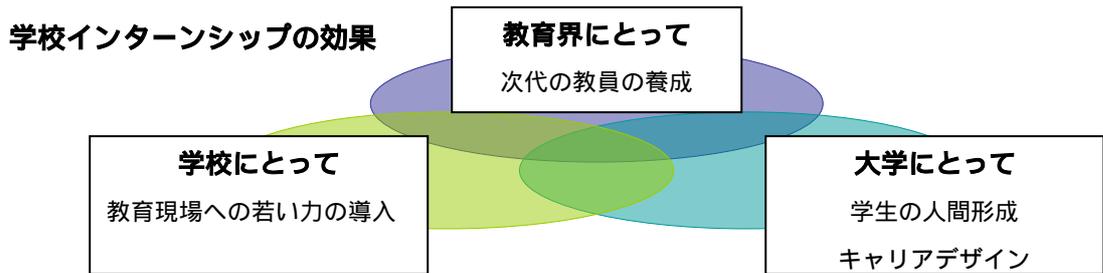
関西大学の学校インターンシップ

インターンシップといえば、通常、企業や行政での就業体験を指します。教職志望の学生についても、実際に接する機会を設けたい。学校インターンシップはこうした意図からはじめたものです。しかし、本取組の意義は、教職志望者の就業支援にとどまるものではありません。学生はより若い世代と接することで、年長者としての責任を自覚し、成長します。この意味では、学校インターンシップは人間性形成に役立つ広義の教養教育です。そしてまた、大学生が高校生、中・小学生たちに接する本取組は、現在、地域コミュニティが崩壊し、ふだんは学年によって分断されがちな年長の若者と年少の若者をつなぐ機会でもあり、学生の力を活かした小中高大連携・地域連携でもあります。

これらは、大学教育における学外教育の意義、人間形成に資する教養教育のあり方、高大連携・地域連携の使命と機能について考え直す契機です。こうした点から、本学は学校インターンシップに新たな可能性をみて、特色GPに申請しました。

教育実習との違い

教育実習は教科指導が主ですが、教師の仕事は、補習・勉強会、学校行事の運営、部活動指導、進路指導、生徒会活動指導、図書館業務、さまざまな問題を抱える生徒へのケアなど、多面にわたります。学校インターンシップは、教師のこうしたさまざまな仕事の補助をして、学校現場を体験することで、教員志望の学生が着実な将来像を描けるようになる、などの効果があります。



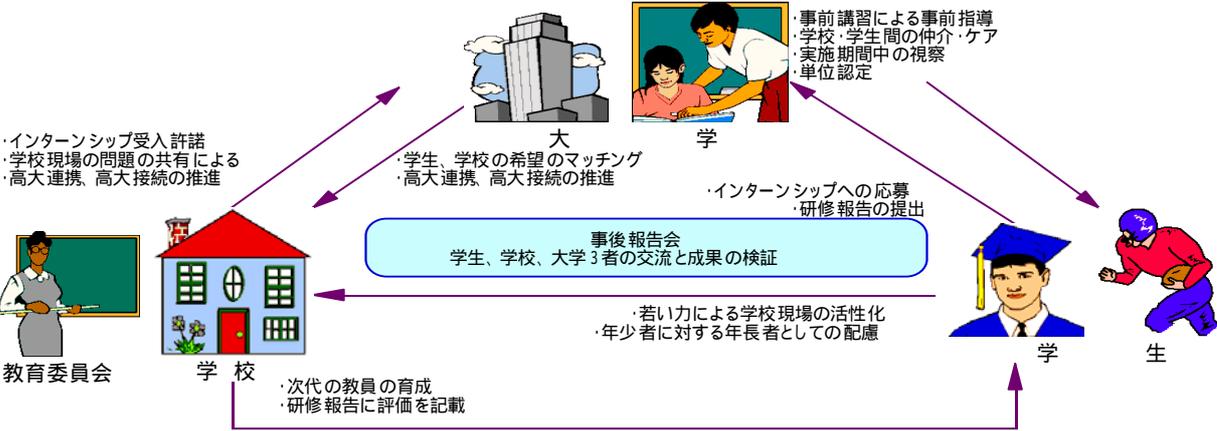
採択された取り組み

「学校インターンシップ」は、2003年度は文学部が試行的に取り組み、87人（延べ96人）の学生を38校、2004年度からは全学的な取組として、301人（延べ315人）の学生を119校に派遣しました。2005年度は、289人（延べ292人）の学生を128校に派遣することが決定しています。2005年度の受入申出校は293校（初年度比で約7倍）、受入可能学生数は約1600人（同約8倍）、派遣学校数は128校（同3倍）、派遣学生数も約3倍の規模に発展しています。

本取組の意義と概要をまとめると次のようになります。

- 学生の人的成長やキャリアデザインを促す効果
- 少子化と教員の高齢化によって生じがちな generation gap の解消への貢献
- 学生の力を活かした新たなタイプの小中高大連携

概念図



本学の特徴

本取り組みを実施するにあたり、自治体の教育委員会と連携協力協定を締結し（2005年7月現在13自治体）、学校現場を派遣先とするという特殊性に配慮し、元校長や現役教員による学校業務講座などの事前講習を行い、志望する学生を大学が面接したうえで送り出し、研修後には学生・受入校教員・大学教職員をまじえた事後報告会を開催、研修報告と業務日報の提出を義務づけ、受入校教員からのコメントを参照して、単位認定を行っています。こうした綿密なケアが本学の

取り組みの特色です。

有効性

本取り組みが短期間のうちにこれほどまでに発展するとは予想を超えていました。受入側である教育委員会、学校の支持をいただいている要因としては、学校現場の教員の高齢化、少人数指導の推進、ケアを必要とする生徒の増加などが考えられます。学校現場からは、「学校インターンシップ学生が、生徒たちにとっては教員とはまた別の、年齢の近い年長者として相談しやすい存在であり、刺激になっている」「学生の発想は教員にとっても刺激になることがある」「学校現場をわかってもらい、次代の教員を育てよう」といった報告をいただいています。また、「事前指導がきっちりしていて、大学側の対応もスムーズで高校との連絡に安定感がある」と評価もいただいています。

一方、学校インターンシップを体験した学生からは、「将来必ず教員になろうと思った。そのための勉強を計画的に進めたい」といったキャリア形成意識の向上、大学での学習意欲の増進、「高校生をみて、この子達がここまでするには、いろんなおとなの助けを借りてきたのだと思った」といった子どもがおとなになっていく成長過程への気づき、自分自身もその過程のなかに位置づける自分自身の成長への気づき、「周りを観察して自分にできることを工夫した」といった創造的な思考にもとづく行動力の向上が報告されています。

将来展望

本取り組みは、きわめて大規模なものとなっております。しかし、この取り組みは人間関係に深く関わり、手厚いケアを要するので、量の拡大ではなく質の維持と向上を優先します。今後は、キャンパス外での学習体験が、大学における教育効果にどのように貢献するか、キャリア形成意識の涵養、教員採用との相関性などについてさらに追跡調査を進めていく予定です。また本取組を通して築きつつある小中高大の連携を土台にして、人間性形成、キャリアデザインなど、共通の課題を抱える教育機関として若い世代を育てるネットワークを作り上げていきたいと考えています。ひとり関西大学の試みに留まらず、本取り組みのこうした意義を広く共有してもらうために情報の発信を続けていきます。

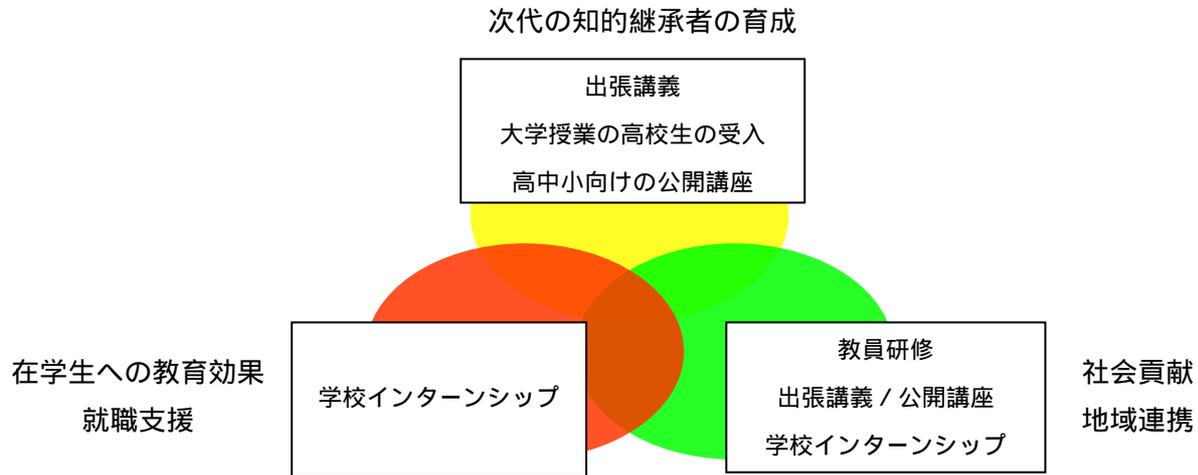
関西大学における小中高大連携の位置づけ

学校インターンシップは本学の高大連携事業のなかに位置づけられます。高大連携というと、まだまだ、入学予定者の掘り起こしのような短期的な視野で語られることが多いようですが、本学は、学校インターンシップを含めて、広く大学の社会貢献・地域連携の観点から、また、若い世代を育てる教育機関として小中高大の間に密接な連携を作り上げる事業として、2003年に高大連携推進事務室を設置し、取り組んでいます。

本学は高大連携の意義は次のように幅広い視点から捉えています。

- 次代の知的継承者の育成
- 在学生への教育効果・就職支援
- 社会貢献・地域貢献

社会全体で若い世代を育てる その一翼としての大学



「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」

文部科学省が実施する国公立大学を通じた大学教育改革の支援事業のひとつです。大学教育の改善に資する種々の取り組みのうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行います。これにより国公立大学を通じ、教育改善の取り組みについて、各大学及び教員のインセンティブになるとともに、他大学の取り組みの参考にもなり、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

【この件に関するお問合せ先】

関西大学 総合企画室広報課 / 川瀬、北谷

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL：06-6368-0075 FAX：06-6337-7078

